

令和元年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況

【令和元年度美術館協議会(令和2年2月26日開催)】

1 説明事項「平成30年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況(会議資料1)」について

主な意見要望等	対応状況
<p>コレクションという表現はとても良いと思う。常設展よりコレクションという響きが新鮮で、ちょっと工夫したものを見せてもらえるような印象がある。</p>	<p>(前回回答)他館の状況も調査し、常設展をコレクション展示に名称を変更する方向で検討している。変更に当たり、予算等クリアすべき課題もあり、もう少し時間を頂きながら今後も進めていきたい。</p> <p>(追加回答)来年度(4月)から名称変更することとして準備をしている。</p>
<p>委員から出た要望に対し、報告だけではなく実際行動に移していたことがよく分かった。特に、「ジブリの大博覧会」の時は、一般の目には分からないかもしれないが、行列に対するスタッフの一生懸命な対応はよく伝わった。また、常設展もあるという声掛けも合わせており、努力していると思った。</p>	<p>(回答)本協議会の意見、要望に対しても可能な限り実現できるよう取り組んでいる。目立たない部分の行動に賛辞をいただき励みにもなる。</p>
<p>来館の際、常設展の観覧への声掛けがあり、現場での努力が感じられた。</p> <p>また、アプリーレのバックヤードツアーの特集もとても素敵だった。新しいスタイルで学生に紹介する時、こういったものがあればとてもいいと思った。</p>	<p>(回答)出版物の編集についても創意工夫のうえ実施している。</p>

2 説明事項「平成31年度・令和元年度事業実施状況(会議資料2)」について

主な意見要望等	対応状況
<p>ファミリータイムは、平成30年度途中から始まったと思うが、最近の利用の傾向や状況などはどのようになっているのか。また、要望だが、昨年11月に開催した当協議会以降の前年度からの入場者数等の利用状況についても報告してほしい。</p>	<p>(前回回答)企画展の来館者数によって利用人数も変わる。ジブリ展期間中は2桁の利用があったが、利用者0の日もあり、そこまで多くの利用者がいる状況ではない。昨年度より利用者は減っているため、今後もツイッターやチラシへの情報掲載など周知を図りたい。また、要望のあった前年度開催以降の資料については次回から準備する。</p> <p>(追加回答)利用状況については、本日の会議資料4の「観覧者数の推移」のとおり。</p>

<p>なかなかこういう企画（ファミリータイム）は、1年では浸透しないもの。2～3年かけて、皆さんに知って頂く企画だと思うので是非今後も継続して欲しい。</p> <p>アートデオヤコも順調に参加者を伸ばしていると思うが、実施から何年になるのか。</p>	<p>（前回回答）10年以上は継続している。毎回10組限定なので参加の希望に添えない事もある。アートデカゾクは人数制限なしで企画しているが、人数の伸び悩みもあり、今後の検討課題としている。</p> <p>（追加回答）アートデオヤコは開館当初から継続しているプログラムである。コロナ感染症対策として定員を半減するとともに、換気、手洗い消毒などを徹底して実施している。</p>
<p>アウトリーチ事業も数値を伸ばしているようだが、具体的にはどのような内容になっているのか。</p>	<p>（前回回答）当館の所蔵作品を集めたアートカードを利用し、ゲームのように楽しんでもらいつつ、鑑賞教育の導入としてプログラムを実施している。5か年計画で地域を限定して募集しているが、実際の募集は少ないのが現状である。</p>
<p>小学生の職場体験は受け入れているのか。</p>	<p>（前回回答）職場体験は受け付けていない。バックヤードは公開できない場所が多く、体験できない仕事の方が多いという理由もある。ただし、質問に答えることはできるので、そのような対応を行っている。</p>
<p>出前授業は小学校だけではなく、中学、高校でも実施しているのか。中学、高校は専科の先生がいるので利用は少ないのではないか。学校によっても違うと思うが、利用したい先生からのオファーはあると思う。</p>	<p>（前回回答）高校の美術部へアートカードを貸し出すことはある。当館の職員は出向かず、アートカード返却時に利用の様子を報告してもらっている。所蔵作品はHPから検索できるので、アートカードの作品指定といった要望にも応えて貸し出している。</p> <p>（追加回答）年4回の常設展示替えに合わせ、展示中の作品をアートカードにしている。出前授業の後に来館すると、実際に観られることを重視している。</p>
<p>高校の美術などの部活動でも専門の先生がいないうことはよくある。その場合、美術館職員が出向いて指導して頂くこともあると思う。また、不来方高校美術部で中学生向けのデッサン教室を年3回開催している。それについては、毎回インターネットを通じて募集しているが、すぐに満席となる状況だ。体験したい人はたくさんいるということだし、そういう企画もニーズはあると思う。</p>	<p>（回答）美術館職員が各学校へ出向いて部活動を指導することは想定していない。過去には、短期間のものだが油彩画やデッサンに取り組むプログラムを実施したことがあり、いずれも好評であった。ただし、当館は、開放型のアトリエは持っていないので、継続的な制作の場を提供することは難しい。</p>

3 説明事項「令和2年度事業実施計画（会議資料3）」について

主な意見要望等	対応状況
<p>友の会からの要望としてお伝えしたい。展示事業の常設展については、今年度の柳原義達のように、各部屋に他館から作品を借りて展示する機会を検討してほしいとの声があった。また、教育普及事業では、参加できなかった人のためにも、開催した各</p>	<p>（前回回答）常設展示で他館の作品を借用し、展示したことは過去にある。承諾や経費等状況を踏まえ、予算的に可能であれば視野に入れつつ検討したい。</p> <p>（追加回答）他館からの借用は、所蔵品を多数貸し出すなどの機会に、空いた展示室の有効活用として実</p>

<p>講座の簡単なレジュメなどをHPに掲載を検討してほしい。</p>	<p>施してきたもの。借用には、予算だけでなく、それに係る交渉事務、実際の借用返却など、時間と労力を要するものであり、今後も機会があれば実施していきたい。</p>
<p>県内で所蔵作品を貸し合うのは、多くの人に観ていただくために良いのではないか。</p>	
<p>実際、作品の貸し借りは多いが、施設環境の管理面でクリアできる施設は県内では多くない。</p>	
<p>萬美術館でも作品を借りることはあるが、運送費の負担や管理等大変厳しいものであることはご理解いただきたい。</p>	
<p>不来方高校は沿岸など、様々な地域から生徒が集まっている。文化普及振興の立場から、美術館に丸投げではなく、後進の育成のためにも県の施策として、美術品に触れる環境をつくってほしい。地域格差がなく、県民が芸術に触れる機会を作っていただきたい。</p>	<p>(回答)過去には県内各地に作品を輸送して移動美術展を開催したことがあるが、作品を展示できる環境・条件をクリアする施設がごく少数に限られることから、事業は終止した経緯がある。バス借上げ事業も一時期、震災復興事業として三陸沿岸地域の学校を対象として県教委で実施し、現在、県文化スポーツ部で引き継いでいる。</p>
<p>芸術に触れるだけでなく、公共の施設でどのように振舞うかというルールやマナーを体験することも、美術館での学びとして大切だと思う。</p>	<p>(回答)鑑賞マナーについては、学校からの利用申込みの際に説明するとともに、学校あて鑑賞マナーを記載したペーパーを送付している。</p>
<p>遠い地域においては、公費で交通費を負担するなど、行きやすい環境づくりも大切だと思う。そういうニーズにも応えてほしい。</p>	<p>(前回回答)他部署での実施であるが、沿岸部からは復興支援の一環として、美術館に限らず、遠隔の施設へのバスを運行する事業は行っている。来年度も実施予定であると聞き及んでいる。</p>
<p>震災後、中総体の時期に文化部生徒が若冲展を観に行くと大変喜んでいて、バスをもっと上手に活用できると良いと思う。</p>	
<p>住民として地域の環境美化に取り組んでいる。「もりとびあネット」でも年3回のクリーンキャンペーンを行ってはいるが、市としても各施設との連携を図りながら対応してほしい。また、地元主催の「ゆいっこまつり」のアンケートで、公園内のわかりやすい看板がほしいとの声が寄せられた。今後の検討の一つとしてほしい。</p>	<p>(前回回答)「もりとびあネット」については、クリーンキャンペーンのほか、ネットワークの構築の一つとしてスタンプラリーやチラシの設置などに取り組んでいるが、県と市という立ち位置の違いや予算の兼ね合いもあり、現在は見直しの段階にきている。今後は、大幅な見直しもありうる。 (追加回答)看板の設置についても、「もりとびあネット」の中で整理していかなければならない案件であると認識している。</p>
<p>「紅子と省三展」の際、県立図書館とコラボする企画があったと思う。来年度の企画展についても、継続してほしい。</p>	<p>(前回回答)県立図書館からは、すでに4月からの「ムーミン展」に合わせ、関連した企画を検討中との連絡を受けている。 (追加回答)県立図書館とのコラボは確立してきており、「ムーミン展」、「Human and Animal展」でも計</p>

	画していたが、展覧会自体が中止となったため、実施できなかった。また、「駒形克己展」、「東山魁夷展」では、図書館内の飾り棚に、各企画展関連図書を配架してもらうなど、今後の企画展でも同様の連携を図っていく考えである。
正直、美術館はあまり身近ではなく、何のためにあるのか、という実感である。予算やアクセスなど様々な内容が話し合われているが、個人的には観たい展示があれば料金は払って当然、しかし、教育普及的な面ではそれぞれの立ち位置で変わってくるのだと感じた。内容を分けていただくと意見しやすい。また、「ジブリ展」については、多くの人が来場し、県民としても有り難い企画であったと感じている。	(前回回答)当館でこれまで様々な企画展が行われてきたが、目的の一つとして、敷居を低くしようという狙いがあった。日本を含め世界的にもファインアートだけではなく、サブカルチャーといわれる企画も多くなされている。その意味で今回の「ジブリ展」では、初めて美術館に来た人も多く、非常に意義があったと思う。新しいページを開いたという気持ちだ。同じような企画が次々出来るかといえば、それは別の話になるが、今後もしろいろな形で展開していきたい。そういう意味でもジブリの力は強かったと感じている。
「ジブリ展」は、これだけの来館者を事故もなく運営したことは、スタッフにとっても財産になると思う。さらに、今年の企画展は、「広重展」の際のクイズなどといった、大人も子供も楽しめる企画が常にあり、よく考えられていたと思う。	

4 協議事項「岩手県立美術館の運営」について

主な意見要望等	対応状況
	(前回回答)常設展の名称については、予算措置も含めて来年度で固めていきたい。また、割引制度については、この協議会でも色々な提案をいただいたので、一步一步進めていきたい。
「ジブリ展」は普段美術館に来ることのない人も足を運んだというお話があったが、とても大事なことだと思う。また、岩手ゆかりの作家の展示として、唐武さんなど、県内でもあまり知られていないような作家を取り上げるのは、企画展としては地味で目立たないものかもしれないが、美術館としては大事な仕事だと思う。これからも自主企画についてはさらなる研究と展示をお願いしたい。	
先ほどの美術館って何のためにあるんだろう、という根本的な問いはすごく大事なことだと思う。一言で返事が出来るものでもないが、今日配られた資	(前回回答)当館は2021年に開館20周年の節目を迎える。お話あったことについては、時代に合わせた形で表現に取り組んでいきたい。また、委員の方に

<p>料の中に、基本理念や運営方針という言葉があるが、それをもっと明確に打ち出すような表示、あるいはこういった資料の中にそれが示されていれば、もう少し分かりやすくなるのではないか。</p> <p>例えば、一関博物館では基本理念や運営方針を小さな紙に印刷をして、チラシやアンケートのそばに設置している。一般の方にもわかるよう、何らかの形にした方が良いのではないか。基本理念と運営方針がないと、講演会や各イベントの集客の話題になってしまい、何をすると、何をを目指して、どういう目的をたてているからこういう行事をするのだということが、バラバラに解釈されてしまう恐れがある。協議会の時は、そこをわかるような表現にすれば、混乱なく理解できるのではないか。また、去年の協議会でも、各委員よりもっと広報に力を入れた方がよいとの声があったと思うが、委員にもっとPRをお願いするためにも、協議会の開催前などにバックヤード見学や美術館を知ってもらう試みがあってもよいのではないか。検討願いたい。</p>	<p>バックヤードをご紹介することは大事だと思うので、次回検討したい。</p> <p>(追加回答)基本理念、運営方針については、会議資料1のとおり。また、バックヤードの見学については、美術館の隠れた魅力を探る館内ツアーとして「美術館てくてくツアー」と銘打って、美術館の建物の機能や特徴、設備の秘密を当館スタッフが紹介しているイベントであり、2ヶ月に一回実施しているものである。現状は、コロナ禍の折、いわゆる三密回避のため、「バックヤードツアー」ではなく、通常、来館者が見学できる場所で、密にならないように内容を工夫して開催している。以上のことから、次回以降に実施することとしたい。なお、企画展、常設展については、後程、ゆっくりと御覧いただきたい。</p>
<p>今、お話のあった、基本理念や運営方針については、会議冒頭に確認し、存在意義というものを協議会では、きちんと理解して議論を深めることが大事だと思う。鋭意努力していただきたい。</p>	<p>(回答)基本理念、運営方針については、会議資料1のとおり。</p>